

イランの細密画 『シャー・ナーメ』の世界

Thematic Exhibition
Iranian Miniature Painting
The *Shahnameh* ("Book of Kings")



『シャー・ナーメ(王書)』は、イランの詩人フェルドウスィーが977年頃から1010年頃に記した叙事詩です。その内容は、伝説上のイラン最初の王カユーマルスからサーサーン朝の滅亡までの神話・伝説・歴史を集成したものです。

『シャー・ナーメ』の写本には、その豊かな物語の世界を彩るために、きわめて緻密かつ繊細な細密画が挿図として描かれました。これらの細密画はイラン美術の最高峰のひとつとして評価されています。

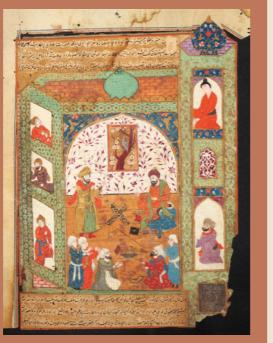
今回の特集では、『シャー・ナーメ』の作者であるフェルドウスィーをはじめ、物語の核となる伝説的王朝のピーシュダーディー朝およびカヤーニー朝、怪力や神秘性を備えた伝説的な英雄ロスタムを輩出したロスタム家、勇気・忠誠・知恵・戦略を備えた英雄を輩出したグーダルズ家、そしてイラン世界の宿敵として物語に登場するトゥーラーン王家、さらに歴史上の英雄であるイスカンダル(アレクサンドロス大王)など、多彩な登場人物と王朝を通して、イランの細密画の魅力に迫ります。

The *Shahnameh* is an epic poem compiled by the Iranian poet Ferdowsi around 1000 AD. It encompasses myths, legends, and history from the time of Iran's first king, Kayumars, to the fall of the Sassanid Empire (224-651).

This thematic exhibition explores the allure of Iranian miniature painting through a range of relevant characters and dynasties, such as Ferdowsi, the author of this literary work; the legendary Pishdadian and Kyanian dynasties; the Rostam and Goudarz clans, which produced many heroes; the Turanian royal family, which stood against the Iranian world; and Alexander the Great.

展示グループ

A フェルドウスィー



A
フェルドウスィー
Ferdowsi

B
ピーシュダーディー朝
伝説上の第一の王朝
Pishdadian Dynasty
The legendary first dynasty

C
カヤーニー朝
伝説上の第二の王朝
Kayanian Dynasty
The legendary second dynasty

D
ロスタム家
英雄ロスタムを輩出した名家
The Rostam
An elite clan that produced the legendary hero Rostam

E
グーダルズ家
勇気・忠誠・知恵・戦略を備えた英雄を輩出した名家
The Goudarz
An elite clan that produced courageous, loyal, and strategically intelligent heroes

F
トゥーラーン王家
イラン世界の宿敵として物語に登場
The Turanian Royal Family
Depicted in the epic as a nemesis of the Iranian world

G
イスカンダル
(アレクサンドロス大王)
再登場する歴史上の英雄
Iskandar
(Alexander the Great)
A historical hero who makes a reappearance

D ロスタム家



11 霊鳥シームルグによるザールの返還
The Return of Zal by the Sacred Bird Simurgh



14 白象を殺す英雄ロスタム
The Hero Rostam Killing a White Elephant

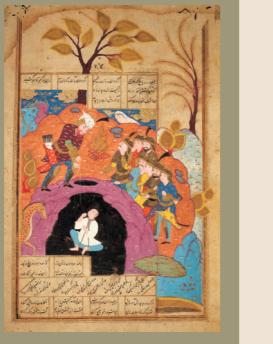


15 悪魔アクヴァーンによって海に放り込まれる英雄ロスタム
The Hero Rostam Thrown into the Seaby the Demon Akvan

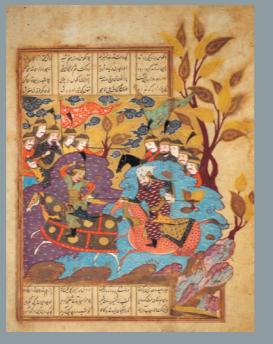


16 戦うソフラーブ
The Warrior Sohrab Fighting

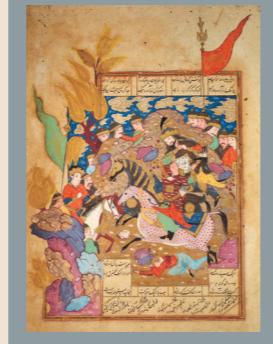
E グーダルズ家



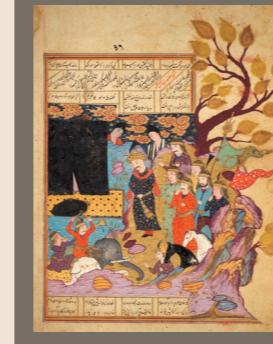
17 ビージャンを救出する英雄ロスタム
The Hero Rostam Rescues Bijan



18 英雄ロスタムとアフラースィヤーブの戦闘
Battle between the Hero Rostam and Afrasiyab



19 トゥーラーン王アフラースィヤーブと戦う英雄ロスタム
The Hero Rostam Battles King Afrasiyab of Turan



20 イスカンダル(アレクサンドロス大王)のカアバ神殿巡礼
Pilgrimage of Iskandar(Alexander the Great) to the Kaaba Shrine

1 ~ 21

『シャー・ナーメ』写本挿図

Illustrations from a Copy of *Shahnameh*

イラン・サファヴィー朝時代・16世紀末~17世紀前半

紙にインク、水彩、金彩、銀彩 個人蔵

Iran: Safavid dynasty, end of the 16th-first half of the 17th century

Ink, opaque watercolor, gold, and silver on paper

Private collection

TNM

特集 イランの細密画——『シャー・ナーメ』の世界——

令和8年(2026)1月13日発行

執筆・編集: 藤木言一郎、小野塙拓造 撮影: 藤瀬雄輔 翻訳: 君波妙子(以上、東京国立博物館)

デザイン・制作: crA 印刷: 東京印書館 編集・発行: 独立行政法人文化財機構 東京国立博物館

©2026 東京国立博物館 Tokyo National Museum

二〇二六年一月二十七日(火)～三月一日(日)
東京国立博物館
平成館企画展示室

フェルドウスィーと『シャー・ナーメ』

『シャー・ナーメ(王書)』はイラン古来の伝承や英雄神話をペルシア語でまとめた全5万行に及ぶ叙事詩です。作者フェルドウスィー(934~1025)は30年以上の歳月をこれに費やしたといわれます。

彼はイラン東部ホラーサーンの地主階級の出身で、古代イラン文化に対し強い誇りを抱いていました。977年頃、編纂を始め、イランのサーマーン朝の庇護を受けて、994年に初稿を完成させました。

990年代後半、テュルク系のガズナ朝がサーマーン朝を滅ぼすと、彼は王マフムードの庇護を求めて首都ガズニーへ赴き、詩作を続けました。1000年頃に完成し、1007年頃に献呈しましたが、宮廷には受け入れられず、失意のうちに故郷に戻ったと伝えられます。

後世、イランでの『シャー・ナーメ』に対する評価はとても高く、フェルドウスィーも「国民的詩人」として讃えられています。



1 ガズナ朝の君主マフムードに『シャー・ナーメ』を献呈するフェルドウスィー

Ferdowsi Presenting the *Shahnameh* to Mahmud, Ruler of the Ghaznavid Dynasty



No.8 部分

12 ザールと美女ルーダーベの出会い

The Encounter Between Zal and the Beauty Rudabeh

ザールは名門ナリーマン家の出身でしたが、生まれつき白髪であったため、父親のサームに捨てられ、靈鳥シームルグに育てられました。ルーダーベはアフガニスタンのカーブルを治める王族の娘でした。ザールはカーブルで彼女と結ばれ、二人の間に英雄ロスタムが誕生しました。



10 イスファンディヤールの目に向かって矢を放つ英雄ロスタム

The Hero Rostam Shoots an Arrow toward the Eye of Isfandiyar

シームルグが、王子イスファンディヤールとの戦いに深手を負ったロスタムを助け、イスファンディヤールとの和解を勧めましたが、それがうまくいかなかった場合は矢を射るように教えました。ロスタムが放った矢はイスファンディヤールの目を深く刺し、致命傷となりました。



21 英雄ロスタムとソフラーブの死闘

The Fierce Battle Between the Hero Rostam and Sohrab

『シャー・ナーメ』の「ロスタムとソフラーブの物語」は、父ロスタムと息子ソフラーブがお互いに素性を知らぬまま死闘を繰り広げ、ついにはロスタムが息子を討ってしまう悲しい物語です。真実が明かされたときにはすでに遅く、父子は再会と同時に別れを迎えます。



13 白鬼を退治する英雄ロスタム

The Hero Rostam Slaying the White Demon

白鬼は鬼たちの首領です。彼は魔力を使って、カイ・カウース王の軍勢を壊滅させ、王や将軍、戦士たちを捕らえて盲目にし、地下牢に幽閉てしまいます。そこで英雄ロスタムが立ち上がり、白鬼を討ち取ると、その心臓と血で彼らの視力を回復させます。



No.19 部分



21 英雄ロスタムとソフラーブの死闘

The Fierce Battle Between the Hero Rostam and Sohrab

『シャー・ナーメ』の「ロスタムとソフラーブの物語」は、父ロスタムと息子ソフラーブがお互いに素性を知らぬまま死闘を繰り広げ、ついにはロスタムが息子を討ってしまう悲しい物語です。真実が明かされたときにはすでに遅く、父子は再会と同時に別れを迎えます。



No.11 部分